

新たな自閉症診断基準の草案について

1980年代以降に日本国内に取り入れられた操作的診断基準であるICD(世界保健機関)、DSM(米国精神医学学会)は約10年に1回改訂されることになっています。米国精神医学学会は、2013年6月にこれまでの『DSM-IV-TR精神疾患の診断・統計マニュアル』(以下、DSM-4とする)を改訂し、『DSM-V精神疾患の診断・統計マニュアル』(以下、DSM-5とする)を発表する予定です。その草案が最近発表され、各方面から注目を集めています。そこで今回は、その草案に記されている自閉症に関する変更点について紹介したいと思います。

1つ目は、これまでの広汎性発達障害(PDD)が自閉症スペクトラム障害(ASD)という診断名に統一されるということです。PDDの下位診断名であった自閉性障害、アスペルガー障害、小児崩壊性障害、特定不能の広汎性発達障害(PDDNOS)の4つはなくなり、ASDに含まれることになっています。診断に際して、ASDと注意欠陥/多動性障害との併記が可能になります。また、重症度スケール(レベル1~3)で、子どもの困難さに対する支援の必要度を表していくことになっています。わかりやすくすっきりしますが、アスペルガー障害という診断名がなくなることについては、それなりに大きなインパクトがあるようです。また、米国の自閉性障害の76%、アスペルガー障害の24%、PDDNOSは16%しかASDと診断されなくなってしまう

うというデータが出たりして物議をかもししています。2つ目は、これまで自閉性障害は、①対人的相互反応における質的な障害、②コミュニケーションの質的な障害、③行動、興味及び活動の限定された反復的で常同様な様式の3つの診断基準(「3つ組」とも言われていた)でしたが、DSM-5でのASDの診断基準は、①社会的コミュニケーション及び社会的相互関係の障害、②行動、興味または活動の限定された反復的な様式の2つを満たすことが条件になります(話しことばの発達の遅れの項目は一部が①に含まれますが、項目としてはなくなっています)。またこれまでの「3歳までには症状が生じる」が「必ず幼児期に出現する」に代わっています。ということは①②が幼少期から現れるということになりますので、幼児期の子育てやワクチンなどと結びつけるような問題がなくなるのではないかと思います。また、感覚過敏、鈍感の項目が設けられているのも特徴です。

自閉症スペクトラム障害以外では、精神遅滞は知的障害に統合され、IQに基づかない軽度・中度・重度の分類になることになっています。

ちなみに、世界保健機関が出している「疾病及び関連保健問題の国際統計分類ICD-10」も2014年にICD-11を発表する予定です。DSM-5と同様にPDDがASDになるという方向で検討されているようですが、こちらは未確定です。情報が入りましたら掲載いたします。

副所長 計野 浩一郎

平成25年度の療育プログラムのご案内

平成25年度療育プログラムの一次募集を実施しています。受講希望の方は、申込用紙またはホームページのフォームにて平成24年12月17日(月)までにお申し込みください。詳しい資料を希望の方は、電話かホームページで請求してください。

教育相談のご案内

お子様に応じた教育法や接し方、進路についての悩みなど幅広く相談に応じています。お電話にて相談日時の予約をお取りください。電話相談も受け付けております。

相談時間：60分(火~土 9:30~17:00)
費用：5,000円(教育センター会員 3,000円)

武蔵野東教育センター

〒180-0012
武蔵野市緑町2-1-10
電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595
Email: education-center@musashino-higashi.org
URL: http://www.musashino-higashi.org

支援者のためのセミナーのご案内

平成24年度の第3回セミナーを以下のように開催いたします。まだ若干空きがございますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

【第3回セミナー】
平成25年1月30日(水) 10:00~12:00
「障害者就労支援センターすきっぷの就労支援」
上滝彦三郎(世田谷区立障害者就労支援センター)

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第7巻 第2号 (No.21)
発行日 平成24年12月3日

一年間よく頑張りました

今年も年の暮が近くなってきました。一年を振り返ると、やはり日々通ってくださった子どもたちの頑張りを褒めたい気持ちが湧いてきます。時にはぐずるお子さんもいたかも知れませんが、それを上手になだめすかすなどして、通い続けてこられた保護者の皆さんにも感謝です。節目を乗り越えながら継続することこそが次なる力を生み出していきますが、それを根気強く行うことは決して簡単ではありませんね。成長期の子どもが送るこの一年という歳月には、人生山あり谷ありのような展開があるというのも大きさではありません。認知力やコミュニケーションの力をつけて、社会に適応する能力を高めていこうと努力する彼らの一年間は、周囲が思う以上に苦勞と喜びとが交錯する中身の濃い年月です。この日常の中で、弱いところが矯正されたり苦手なことに慣れたりもする。また、好きなこと得意な活動で気持ちが膨らんだりもする。いろいろな想いを重ね、それを彼らなりに昇華していく中で心が鍛えられていくのです。

ところで、北原キヨ先生はある雑誌の取材の質問に、自閉症の子たちに出会って「とてもきれいな目をしている一きつと中身があるんだ、と私はそう信じたんです。」と話しています。このきれいな目という言葉は著書にも出てきますが、いわゆる目が生きていて覚える力、感じる力があるということです。この子どもたちの中身を信じる姿勢が、その後の学園の治療教育を形成していく基本の視点

武蔵野東教育センター所長 長内博雄

になっています。この子どもたちの内に隠れている心情を感じることは、教育センターでも日常的にあります。たとえば、幼児のグループはクラスで作った作品を職員室に見せに来たりします。担任に促されてちょっとだけ私の前に作品を差し出す子がいます。まだことばも話せずフラフラとして、まるで上の空で視線も定まりません。視線を合わせるのが苦手なのはこの子たちの特徴ではありませんが、目の前にいる私を意識している様子はその子から感じられません。私が「これ作ったの？亀さんかな。上手だね！えらいね～」などとほめます。でもとくに反応はありません。その子が、帰り際にジーっと私の目を見つめています。自分をほめて心に向けてくれた見知らぬ人の内面を、視線をじっと向けて探っているかのようです。ですから、普段本人に接している人のことはよく見ていて、本人なりにしっかり受け止めていることが、このことからだけでも察せられます。彼らがこの先どんなことに興味を持ちどんなことを身に付けて、将来どんな風に自己実現を図っていくのだろうと、よく思いを馳せます。その子に応じた自立の力を、今後ともじっくりときめ細かく促していかなければなりません。

この年末年始には、子どもたちはまた楽しい経験を積むことかと思えます。新年を迎えるに当たっては、ぜひお子さんに年の始まりを喜ぶ心を教えてあげたいと思います。ご家族共々、どうぞよいお年を迎えられますように。





お寺の了ちゃんとの出会い

お寺の広い敷地には、社会福祉法人慈光学園があり、慈光良児園、慈光青年寮、慈光ホームなどが点在しています。これらの施設を作ったのは、お寺の了ちゃんのためだったのです。了ちゃんは幼い時の病気が原因で、肢体不自由になり、就学を迎えたときには、どこの学校にも施設にも入れないことが分かりました。お父さんは了ちゃんのために施設を作ろうとを思い立ったのです。

檀家の方々の反対もあったそうですが、説得して了ちゃんのために施設を作り、同じ悩みの子どもたちを集めて、家庭的な施設を作り上げていったのです。お父さんは、このお寺の住職で、のちに26世管長真言宗豊

山派総本山長谷寺第80世化主に就任されていますが、そのことは了ちゃんには関係なく、やさしいお父さんでした。

了ちゃんは、私が訪ねるたびに、大事なおもちゃを自慢そうに見せてくれるのです。そばでお母さんが、いつも見守ってくれていました。

ある時、了ちゃんは立派な懐中時計を見せてくれました。了ちゃんには不釣り合いな立派な時計です。了ちゃんの手中で、カチカチと時を刻んでいました。この時計は、お父さんが記念にいただいてきたものだそうですが、了ちゃんがお父さんにせがんで、やっとの思いで貰い受けることができましたのです。了ちゃんにとって、この時

コラム 出会い（4）

寺山 千代子（学園アドバイザーボード）

計はとても大切な宝物だったのです。了ちゃんと話すうちに、私はお父さんとも話すようになり、闊達なお父さんの生き方に興味を抱き、対話形式の書籍の編集をさせていただきました。

ある日、突然、了ちゃんの病気が知らされました。そして、了ちゃんは両親を残して旅立ってしまったのです（享年53歳）。お線香をあげに伺ったとき、ご両親はことばもなく、手を合わせておられました。その後、ご両親も他界されました。お寺の庭の藤の花が、在りし日の面影を浮かばせてくれます。



このコラムは4回シリーズでお届けしました。

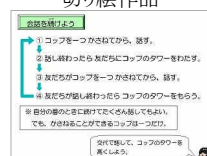
療育プログラムのようす

アート教室 10月下旬から、カッターを使って切り絵の製作に取り組んでいます。カッターを初めて使う子どももいましたが、カッターの持ち方、刃の向きや角度、切る方向など、一つずつ確認しながら進めました。活動を追うごとにコツをつかめてきたようで、上手に作品ができあがったときには「やったー！できた！」と報告してくれました。指先の力の強化と集中力の必要な活動を頑張りました。（北川）



切り絵作品

SST教室 4～6年クラスでは友だちと二人組で会話をする練習を行っています。会話の順番を視覚的にわかりやすく示すため、自分が話すときに紙コップを交代で積み上げていくと上手に話のキャッチボールが続きました。1～3年クラスは『友だちと協力する』ことを重点として、友だちと作業を分担したり、互いに相談しながらパズルを作ったりなどさまざまな活動を行っています。（大澤）



会話を続けよう

音楽教室 上手に演奏するための基礎として、鍵盤ハーモニカ、リコーダーを使用して息をコントロールする練習をしています。一定の音量で優しく長く吹いたり、強く吹いたり、「トゥトゥ」と発音しながら歌口やリコーダーでタンギングをすることなど、いろいろな練習に取り組みました。また、唇の形をしたウィンドホイッスルは、強く息を吹くことで「ヒューン」という音が出て、子どもたちにとっても人気でした。（高橋）



息を強く吹く練習

体育教室 3年目、4年目の子どもたちの中には大人顔負けの滑走ができる子どもたちが何人かいます。そこで今年は1.5メートル間隔に並べられたブロックをジグザグに走行する課題を新しく加えました。左右に体重移動をしながら、目印ごとに一蹴りで通過することを目標にしています。最終的にはタイムを友だち同士で競い合っってスキルを伸ばしていってほしいと思います。（鈴木）



6年生のスラローム

ダンス教室 ダンス教室では、花束などの手具を使って踊る練習をしています。手具の扱いや足のステップをひとつずつ分解して練習することで、新しい課題も大分こなせるようになってきました。4月から体のストレッチを継続していますが、活動の中で柔らかくスムーズに動けることが増えたのは、こうした積み重ねの成果も深く関わっていると言えるでしょう。「継続は力なり」、これからも積み重ねを大切に、楽しく励んでいきたいと思っています。（新堂）



はい ポーズ！



第7巻 第2号 (No.21)

幼児 年中グループは9月からいろいろな動物の顔を描いてきました。「大きなハンバーグがひとつ～。」顔を大好きなハンバーグに見立てて描き出します。耳の形を変えれば「くま」「ぶた」「うさぎ」など様々な動物たちの出来上がりです。そして今回は「きつね」に挑戦。顔の▽はちょっと難しい…。だけど一生懸命がんばりました！いつも思うのですが、描きあがった作品はどどこか描いた本人に似ています。不思議ですね。（本田）



ニコニコ顔のきつね

1年生 算数では、長さの学習をしました。並べて比べるだけでなく、ます目を基準にして長さを比べたり、違いを求めたりもしました。国語では、カタカナや漢字の学習をしています。学習を進めるうちに、「この漢字、知ってるよ！」と嬉しそうな声をよく耳にするようになりました。学習を通じて、身近な漢字への関心も高まっているようです。（新田）



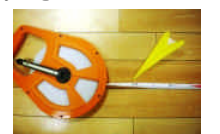
漢字カード

2年生 今月は音楽で「こぎつね」の曲に挑戦しています。階名譜を見て、鍵盤ハーモニカを演奏したり、キーボードに合わせて歌を歌ったりと意欲的に取り組んでいます。曲がとても気に入って、トイレに行くときに口ずさんだり手の指を使ってきつねのまねをしたりする子どもたちもいました。これからも楽しみながら、いろいろな曲に挑戦していきたいと思います。（宮下）



こぎつね こんこん～

3年生 算数では、「道のりときより」の学習をしています。今回の学習では、単位学習や道のりの計算課題の他に、巻尺の使い方や目盛りの読み取りについての学習もしています。図工で作成した紙飛行機を飛ばして、どれくらいの距離を飛んだのかを巻尺を使って計測しました。子どもたちは、「もう一回、もう一回！」と楽しんで活動に取り組むことができました。（宮川）



巻尺で測ろう！



何と言っているでしょうか

4年生 国語では、登場する人物の吹き出しに適切な台詞を考えて書き込む「何と言っているでしょうか」に取り組んでいます。場面や状況を読み取る力や適切な会話のやりとりを成立させる力など様々な要素が含まれるので、見た目よりも難しい課題ですが、楽しく取り組むことができました。（宮川）



水彩色鉛筆は面白い！

5年生 図工の時間に「絵手紙風カード」を作成しています。柿やりんご、焼き芋などを模写した後、水彩色鉛筆を使って着色し、さらに水で湿らせた筆でなでることで、水彩絵の具の風合いに仕上がります。筆でなでると色が溶け出す様子が面白いようで、子どもたちは慎重に取り組んでいました。できあがった作品はどれもよい味が出ており、みんな満足そうでした。（北川）



熟語の学習

6年生 「熟語の成り立ち」を学習しました。よく耳にする言葉でも、読みや意味がわからない子どもたちが意外と多いのが熟語です。「上下」「左右」など対になる漢字でできた熟語や「親しい友→親友」など上の漢字が下の漢字を修飾する熟語など成り立ちを知ることで意味の理解を深めました。まとめで行った熟語を使った短文作りでは、ユーモアたっぷりの文章ができあがりました。（高橋）

中学生 「比例」「反比例」の学習を行い、考え方や計算の仕方(乗除法の確認)を行っています。復習をしながら学習を行うことで、中学生段階の基礎学習に取り組むことができている。国語では、「話し言葉と書き言葉」の単元から、「こそあど言葉」や「丁寧語」の確認を行い文章表現の仕方を学習しました。身に付けてきたことの確認と新しい学習への挑戦を続けていきます。（藤本）



国語の学習

コンピュータ教室 4月からタイピングの練習に力を入れてきた成果が出てきており、中には大人顔負けの速さと正確さでタイピングができるようになった子もいます。最近ではWordやExcelの使い方も学ぶことで、より実践的な技術を身につけることを目指しています。その他にも、デジカメで撮った写真をパソコンに保存したり、インターネットで調べ学習をしたりなど、さまざまなことを学んでいます。（大澤）



Wordを使った入力

言語プログラム セミナー室で、聞き取りの練習やゲームをしています。ソフトブロックがバラバラにあるところで、複数の色の名前を聞いた後に順番に上に乗っていくことや、聞いた色がない時は「ない」と伝える練習もしています。また、前・後・左・右のことばを聞いて反対に動作をします。ちょっと考えてから反対に体を動かすことができるようになってきました。じゃんけんグリコゲームでは、真剣勝負！勝った時はとてもいい笑顔が見られます。（計野ち）



「後」と言われて反対に動く